

令和2年度第3回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和3年2月9日（火）午後6時30分から午後8時まで
場所	尼崎市中央北生涯学習プラザ 小ホール
出席委員	江田委員、大槻委員、鎌田委員、田井委員、田中委員、中平委員、久委員、松岡委員、松村委員（1名欠席）

■議事内容

1 開会にあたって

渥美会長が急遽欠席となったため、職務代理者である久委員が司会進行

ア 傍聴者の確認

傍聴者なし

イ 会議録署名委員について

五十音順に松岡委員と江田委員を指名

2 事業・取組の振り返り（審議）

生涯、学習！推進課から資料1「生涯学習に関する取組の振り返り」及び資料2「令和2年度 生涯学習に関する取組（総括表・振り返りシート）」について説明を行った。
隣席の委員と5分間意見交換をした後、各委員より発言した。

○委員

6地区を並べると地域の違いが分かるという話をした。住民の生活にぐっと入り込んでいる取組もあれば、目に見える形でまちづくりをしている取組もある。以前、社会教育委員会会議の中で、生涯学習プラザの構想に関係する意見で地域の人がやろうとしていることを行政が取ってしまわないのかという心配をしていたが、これを見る限りは、共に歩んでいると感じたので危惧が和らいだ。資料は見やすくてありがたい。

○委員

資料が見やすく、振り返りシートのキーワード欄はすごくいい。キーワードを見ると地域性も分かるし、課題も見えやすい。

○委員

キーワードが分かりやすくてよい。事例を見るにも色んな視点があると思うが、どこを見ればいいのか分かりやすい。総括表の「1 地域との関係づくり・地域活動の担い手づくり」、「2 学びと活動の循環」、「3 生涯学習プラザの事業・グループ活動」がどういうふうに関わり、連動しているのかが分かりにくい。バラバラに見えるような気がするので

改善できるとよい。

○委員

以前より整理された印象を持った。総括表の活動分野に対する振り返りの1、2、3、4が文字列のようになっており、お互いの循環、関係性が分かりにくい。例えば、4つの相関図、関係づくりをしてうまくいった、停滞しているといったことを表紙でつけていただいて、総括表で取り組んだことの説明や改善したいこと、困っていることを簡単な図式で表し、関係性を見せた方が、循環・発展のイメージがわかりやすいのではないかと。

○委員

私は各地区2つあるプラザを拠点にして地域を捉えるので、例えば中央なら北南どちらのことかと思った。地域課は全体を網羅しているかと思うが、私は小田地区在住だが、JRの北側と南側では様子も違うし、働きかける内容も違うと思う。長期目標、中期目標とあるが、10年先はあまりに遠いので、もう少し短いスパンの目標の方が見通しやすい。

○委員

詳細にまとめられていて作成には苦労があったと思う。審議会委員就任の話をいただいたときに、社会教育、特に人権が後退しないようにというチェックをすると聞いていた。そのチェックするところが見えにくくなっているのではないかと。チェックすべきところが委員にわかりやすくしていただけるとよい。長期目標の感想は、抽象度が高いことと、市民依存という印象がある。市民の気持ちが目標になっているのでうつろいやすいし、見えにくい。理念としてはよいので、具体的な数字や、地域活動をしている市民のネットワークのインフラを作るという具体的なものにしたい。そして、それは地域ごとに違うと思う。

○委員

皆が見やすいと発言しておられるが、キーワードを入れて欲しいと私自身が言っていたので入ってうれしい。今後書く中で、共通するキーワードなども増えていくかと思う。最終的にはキーワード検索したら、色々な地区の事例が市民にも見られる、「あの地区こんな取組がうまくいっているから自分のところも取組もう」といったようになるための、プラットフォームになればよいと思っている。例えば「若者とのつながり」というキーワードがあって、それが他の地区の参考になるものであって欲しい。また、「関係性が深まった」、「連携が深まった」と書いている根拠、連携に1人増えたのか、初めての人が5人も来たからうまくいったのか、何をもって言っているのかが見えるとよい。

○委員

一番気になったのが、行政内部の目標指標と、生涯学習の取組の長期目標が同じでいいのかという点である。生涯学習は、住民の目線で、どういうことを変化させていきたいと思うかというより具体的なものだと思う。現場が長期目標を設定しづらい環境にあることを物語っているのかもしれない。長期目標をどう現場目線で作り上げていくのか、その方

法論が課題だと思った。この手のシートを各課が記入すると、評価されるポイントがあればそこに特化して書くという適応主義的になる危険性がある。今回は、振り返りシートの作成の中で、暗黙のうちに事例としての個性が求められていると思ったのではないか。振り返りシートの取組名は分かりやすいが、国のモデル事業報告書のような感じがする。現場では、もっとじっくりと学習や活動の支援をしているのではないかと予想しながら読まないといけない。大学でも、センター長などのトップが情報を取りまとめて書く中で、個性を出してくれと言われればどんな個性を出そうとか、課題を書くように言われれば解決できそうな課題を調整して書いてしまう傾向がある。そんなことが市民の学びを支援する取組になっていくとは思えない。振り返りシートをどう使うのか。現場が吐露したいと思う課題やストロングポイント、ウィークポイントを自由に出す中で、これからこういったことをしよう、市として政策化して欲しいという提案が現場から出てくるのだと思う。書き上げる内容の問題でなく、ワークショップをしたらこれで面白くなるかという問いを立てながら、シートを活用する方法論を考えないといけない。長期目標に関して言うと、これまでの社会教育は、簡単に言うと日本国憲法の具体化であった。基本的な人権を考えていく過程で、デモクラシーを具体化できる場面を作ろうというのが社会教育の意味であった。公民館で対話を楽しみ、人とのつながりを楽しみ、人間らしさを尊重できるような社会を作ろうというものである。平和の問題は、地域内だけではない、地域間、国家間といったグローバルな観点の中で新しい人間のあり方を考え、その中で小さな幸せや平和、家族の幸せは何だろうかと考え、それが往復するような、それができる非日常の空間が公民館である。それ以外にも大人が様々な権利を学び合う場でもある。現代社会の中には、SDGs が新しく加わり始めた。持続可能な開発はどんな文脈かということ、尼崎だけが幸せなまち、スマートシティになるということではなく、我々は地球の中の一市民であることを尼崎から発信できるようなことであり、その中で小さな幸せを共有していくようなロマンティックなビジョンだと思う。社会教育には、これまでの人権・平和・民主主義だけでなく、持続可能性をどう考えるかも新しい価値として問われ始めており、今はそのことを子どもも大人も学んでいかないといけない、と言われている時代であり、その時代に乗った生涯学習支援という目標が長期目標に盛り込まれるべきだと思う。そうでないと、一生懸命出会いの場を作ったり、プラットホームを作ったりしても、何のためにしているのか、地域活動に参加するためなのか。それでは、弱い目標になってしまう。長期目標を現代風に設定していく中で、現場の人達が自ら自分達の活動の意味を紡ぎだすことができるようなワークショップを前提として考えるべきだと思う。

○委員

一人ずつ意見をうかがったので、来年度の振り返りに盛り込んでもらえたらと思う。私のコメントも加えたいと思う。長期目標についての意見もあったが、今、総合計画の見直しをしており、その中で生涯学習をどう位置付けていくのかということと長期目標はリンクしないといけないと思うし、生涯学習の推進計画にどう書かれていくのかと長期目標のリンクする、大きなマスタープランの中で再度チェックしないといけないと思う。どう使うのかというご意見もあったが、作ることを目的化させず、これを使って生涯学習がよりよいものになるように、職員の質が上がっていくことに資するものにするためにはどうい

うものにしていくべきか、という意見をいただいたと思う。総括表の4つの関係性が見えないという意見もあったが、振り返りの前に、最終的に年度目標、中期目標、長期目標に行くためのシナリオがあると思う。こう仕掛けて、こう展開する、こう組み合わせるといった、目標に向かって動いていくためのシナリオがあると思う。これが共有されて、これがどのように展開されるか、ダイナミックなものが根底にあれば、書いてある内容も連動していくと思うので、それをしっかり持って、最終的に目標に行くのが重要だと思った。社会教育から生涯学習に移行する中で、市民のやることを取ってしまわないかという点に関しては、地域課のスタッフは基本的に市民の方が動きやすい環境をつくるファシリテーターが役割ではないかと思う。プレイヤーというよりも、マネジメント、コーディネートという中間支援をすべきだと思う。コーディネート、ファシリテーターについてPDCAのDoの内容を書くと地域課の役割も明確になる。特に長期目標が行政内部の目標にならないように、市民とも共有できているのかどうかは重要で、地域課が機会をつくり、改めて6地域の目標を住民とともに作り上げていくことも試みとして考えられると思う。最後に、私の大学も、今年7年ぶりに大学基準協会の審査を受けることになっており、私も全学の自己点検評価の委員でまとめているが、PDCAがうまく回せていないことが多いと感じている。例えば何をもって関係性が深まったか、振り返りシートと関連させながら総括表を分かるようにする必要がある。評価にはエビデンスが必要である。大学の評価は成果と課題を書くように割り当てられている。総括表の「取り組んだこと」はDoが書かれているイメージだが、成果と課題とした方がよいのではないか。そうすると、成果と積み残しが、タイトルそのもので共有できる。また、目標が曖昧だとチェックできない。プランも明確にしてもらいたい。アクションも書ききれていないことが多い。何が積み残しか、その要因が分かると、どうすればステップアップできるか分かる。私達も大学でPDCAを回しているが、やりっぱなしの事業は許されず、仕事のあり様を変えていかないといけない。大学では3つのポリシーを作りなさい、それに基づいて教育しなさいと言われているが、そうすると関係づけ、体系化を考えることになる。目標を共通すると、バラバラになっていかない。そうするとやらされ感も軽減され、自分のやっていることの質も上がっていくということで、習慣づけをしていただけたらと思う。

○委員

私は、文部科学省の評価のスタイルが大学の学びの空間をゆがめていると理解している。現場の人たちも主体的で試行錯誤が許される、のびのびとしたいと思うことができる環境を作ることが学びの基本だと思う。地域コーディネーター、ファシリテーター、学びのコーディネーターとして、地域課の人が自発性と主体性をしっかり持った職員として生き生きと働くことができるためにどうしたらよいかということが原点にあるはずである。PDCAモデルが重要なのは、混沌とした状況であれば自分達のやるべきことを探すことも大切だが、目標や目的を協働的に作り上げていくことに関与できなくなると、とたんに窮屈になり、本来やるべきことを考えることをやめることも起こりえる。短期目標をひたすらこなす、エビデンスのある行事をやっていくということになる。10年、20年、30年で地域が醸成されることを、職員がロマンティックに考えることができなくなったら、だれが考えるのか。ほどほどということがある。現場の人がやりたいことをできるという対話が

重要になる。それが失われると、結果的に豊かなまちづくりにつながらなくなると危惧している。この生涯学習審議会は答申をまとめるものでなく、それぞれが意見を言ったものをどう行政が受け止めていくかということであると理解しているので、私の意見として言わせていただく。ことはそんなに単純ではないと思っている。

○委員

私は評価される側だけでなく、他大学の評価する側にも回るが、その審査員のときの研修でまず言われるのが、各大学の主体性を尊重してください、あなたの持っている教育観を押し付けてはだめですということである。そのため、私は自由裁量を持たせてもらっていることを理解して報告書を書くが、半分かうちの先生は基準に合わせましょうとなってしまう。そうすると窮屈な評価になる。目標を立てて、だからこうしていると審査員に伝えられたら、それを前提に審査員は審査してくれる。この根底を共有できていないと評価はおかしな方向になる。これから我々も毎年繰り返していくが、根底に持っていないといけない。

○委員

委員としてお手伝いができたらいいなと思って聞いていた。現場の職員は色々とチャレンジをしており、様々な制限の中で困っていることがあると思う。お金の使い方、人との関わり方、就業時間の使い方、仕事か仕事でないかの曖昧さ、そういったことを聞かせてもらったら、だめだったことが楽になったり、OKになり、豊かな地域ができるかと思う。課題や困りごと、動いている職員の声を聞かせて欲しいと思った。

○委員

課題として残っていることを正直に言ってくださいということかと思う。行政の評価は、評価の場面では批判されないように整えて書いてしまう。できなかったらできないので、むしろどうしようとしているかを書くとか、あるいはアドバイスをくださいという書き方でよい。また、成果も堂々と言って欲しい。例えば、よくあるのが、A、B、C、Dの評価だと、Aはおこがましいし、CやDはかっこ悪いので、Bをつけるのが85%になる。ただ、A、C、Dでも言って欲しいということ。Aに至らない理由は何かなど、正直に課題を言ってもらい、責めるのではなく、一緒に知恵を絞る審議会の雰囲気にとできるとよい。

○委員

汲々と嘘をついたり、もういいとすねてしまう教員はどういう大学に多いかと言うと、予算が削られてしまい、やりたいことができないところだと思う。教員は一人一人力をもっているが、一定の水準の人が集まった場合、評価はどのような励まし方があるかという発想ではなくなる。いかに自分で予算をとって来られる職員を集められるか、個人でアピールできる職員を集められるか、という考え方になってくると大学は総合化していかない。就職してからその大学で准教授、教授となり、大学の伝統を学問的にも広げていく人達がいなくなる。退職までずっと骨をうずめて頑張る行政の職員が生きがいを感じるこ

ができる職場にしていけないといけない。生涯学習審議会は、現場の人達が自分達のしていることを応援してくれる審議会だと思う。市長の言うとおりにするのはない、トップが持つ指標だけでない指標を言ってくれ、守ってくれ、だからこそ一生懸命仕事ができる稀有な審議会だと思う。応援できる指標は何かを私達は聞かないといけない。コミュニケーションを審議会と現場の人達がとらないといけない。応援したい情報をシートでいただきたい。現場がアピールしたい指標を出していただく時間や場があってよい。

○委員

お互いが楽しく振り返りできればということかと思う。

○委員

モチベーションを上げるために、生涯学習プラザコンペティションのような、市民に対してやってきたことや乗り越えようとしている課題を発表できるものを年度の最後にセットし、そのためのプレゼン資料として作成する。それを文字に起こして報告書を作る、ストロングポイントを出せる仕掛けをシナリオに入れてはどうか。振り返りシートはそれとセットにしないとやる気がわいてこないのではないかな。

○委員

数値のエビデンスだけではない。数値は面白くない。エピソードが欲しい。こんな面白い団体が生まれた、こんな人がこう変わったということの方が分かりやすいし、伝えやすい。ある市の協働の評価で、市役所の評価と市民活動団体側の評価、両方を聞くということをした。すると、全然見方が違う。市役所はうまくいっているとしていたが、市民活動団体は課題ばかりという声が聞こえてきた。立場の違い、見る方向の違いで、違う評価になったという体験をした。来年度とは言わないが、地域課の職員の評価だけでなく、地域の人の評価を見せてもらえるような場があるとよい。比べると市の評価が妥当かどうかチェックできる。市民委員の立場は、その地域の人という立場もあるので、来年度そういった評価をいただけるとよい。

○委員

次に審議方法・審議内容の意見や提案についてだが、この生涯学習審議会は、審議方法もかなり実験的にしている。来年度に向けてよかったところ、こうした方がよかったところがあればうかがいたい。

○委員

最初に審議会に参加したときに、グループワークだったので新鮮でうれしかった。委員のメンバーの考えが率直にでてくるのがよいと思った。これからも皆さんと本音の議論ができて、現場の職員とつながっていくとよいので、これからも楽しみにしている。

○委員

特定の委員が話すことが多くて、この議論に他の委員が入るのは難しいとも感じる。グ

ループワークだと3～4人でホットな話題を話せるので、グループワークの形式は続けて欲しい。また、例えば今日は様式の話をするとしても、根本的な話が出てくる。まず根本的に生涯学習をどうしていきたいかという話を委員と地域課でする勉強会をしたい。それをつかんで、その観点から見るとどうだろうという話をしたい。あと、各回の問いを具体的に絞っていただきたい。今日も審議方法の感想・意見とあるが、グループワークだともっとしゃべれたかと思うのでもったいなかったように思う。

○委員

私も勉強会をしたいという話はしていた。先生方ほど、社会教育や生涯学習を知らないまま市民感覚で参加しているので、目指すところを自分の中に入れる機会があればと思う。思い返すと、体制が変わって、職員も畑違いのところから来たという挨拶を当初の審議会で聞いたと思うので、一緒に共通認識を作る時間が、思った以上に大事だったと思う。もっと職員と話す機会があったらと思った。

○委員

私も生涯学習、社会教育について勉強しないといけないと感じた。一市民としてのささやかな意見を言わせていただけてうれしく思う。振り返りシートを見ると地域課の皆さんが頑張っているので、逆に困ったことがあれば言ってもらって、何かしらお役に立てたらよいと思う。

○委員

私も基本的なことをあまり理解できておらず委員に入ったので、戸惑うことが多く、正直、毎回苦痛だった。私も勉強会をして、基本的なことや方向を皆さんと学びたい。畑違いの部署から地域に入り、地域の人と関係づくりをした職員は努力されたと思う。皆さんの熱量はすごいものがあると感じている。今日は初めて楽しい回だったと思う。

○委員

最初の審議会から、緊張の連続だった。グループワークのグループは、先生方と同じことが多く、聞いているだけのことが多く、自分は行政の身近の立場だと思うが、その立場の話を言っているのか悩むことが多かった。本日は、隣同士で話すときに視点や目線が同じで話しやすく共感するところが多かったし、先生方の話を楽しく聞けたのでよかった。今年度、立花庁舎の中で勤務しているが、これまでで一番、地域課の近くにいる。今までは、いいことだけを並べたくなるので、どこまでそうなのか、どこがしんどいのか分からないと思いながらみていたが、今は身近で見ると、最初の印象からすごく変わっている。色んな動きをしていて、社協顔負けのところもたくさんあるし、総括表も、もっとよく見えるようにしたり、もっと市民に分かるようにしたいという思いがある。もっと自分にできることが提供できるとよい。

○委員

私は、ザ主婦という感じの考えで、地域学校協働本部のコーディネーターや、主任児童

委員をしているが、自分にとってはボケ防止だと思っている。ポジティブにどう変換するかが好き。社会教育、生涯学習も勉強したいし、現場の地域課の生の声を聞きたい。色々な苦勞、こことここをつなげるためにこんなことをしたとか、地域にも色々な財産があると思うので、次年度はそんな話を聞きたい。もっとわくわく感を味わいたいと思う。

○委員

市民とも共有できているか、という話が面白い。仕事柄色々な会社に行くが、会社の目標は色んなところに貼ってある。例えば、町内会長に配る資料に地域の目標があると、知らず知らずに意識付けできていくのではないかな。また、プラザ移行の際に、地域課職員の異動はできるだけ短くしないで欲しいと依頼した。これは市民側の視点で、せつかく人間関係を築いても異動してしまったということがこれまでも色々な場面であった。異動はやむを得ないかもしれないが、キーワードを見たら、行政側も市民側も分かるように審議会の話で共有したらよいと思った。

○委員

グループワークはあってよいが、全体で議論や共有する時間も必要だと思っている。他のグループの人に言いたい意見もある。全体でもう一度共有や意見交換をする時間を設けたらよりよかった。審議会なので、審議会としての合意事項を作っていけないといけない。ワークショップは発散する道具なので、それはできない。全体とグループワークをうまく組み合わせないといけないし、時間のバランスは取って欲しい。先ほどから皆の意見を聞くと、プログラムを詰め込みすぎているかと思う。3分で議論、2分で発表と時間に追い立てられないよう、もう少し回数が増えてもいいから時間的ゆとりを持ちながら議論ができればゆったりと参加できたと思う。

ここまで、各委員の意見を聞いた中で、最後に、市長のコメントをいただく時間ができた。

◆市長（事務局）

審議会そのもののやり方もチャレンジをしてきたと思う。職員の応援団になる審議会を目指す、その一里塚として私が「そうなんです」と思う視点をいっぱいいただけた。私ももっとたくさんの方の目線で繰り返し言ったり、職員と共有する場をたくさん作らないといけないと感じた。事前に事務局の説明を聞いて、シートを行政だけで作るのかと思った。そもそもの趣旨が共有されていないのでは、振り返りこそ一緒に活動した皆さんとすることが大事かと思った。本日、予定通りそういった意見をいただけた。行政組織は、何のためにしているのかがすぐに抜ける。繰り返し行うこと自体が目的化することが、強固になる組織だと実感している。シートを作成すること自体が作業化するという壁にも何度も当たっているが、こういうこと抜きには、やることだけが目的化してしまう組織だと強く感じている。振り返りが目的化しないように、日々悩み、職員と一緒に頑張っている。人権の審議会で、人権教育や研修の在り方を検討している。委員が総合計画にも関わっていただいているが、審議会同士をもっとつながないと、関係性を深めていくまちづくりにつながらないのではないかなというチャレンジを始めており、人権と生涯学習の議論をくっ

つける形で勉強会を企画し、関係する職員も一緒にさせていただいたらと思う。今日強く決意したので、これはやりたい。よい提案をいただいたと思う。地域課職員の研修もしている、それともつながっていないといけないとも感じた。今日の審議会も具体的なアドバイスをたくさんいただいた。ありがとうございました。

○委員

豊中市でまちづくり支援している職員が、地域に嫌われないといけないと言っていた。喜ばれる支援ではだめだと言っていたことを補足したい。その他、事務局より連絡をお願いする。

◆生涯、学習！推進課長（事務局）

シートは作ることが目的にならないよう、シートを活用しながら作成過程で議論し続けることが大事だと感じている。

次回の日程は、次年度5月から6月くらいに開催できるよう日程調整したい。

また、コロナ禍をきっかけに各種行政手続きにおける押印の見直しが進んでいる中で、来年度より各委員に議事録の確認をお願いしたうえで、議事録への署名・押印をやめて簡素化したいと考えているのでお願いしたい。

閉会